

## V 明日の“楽しい保育”につながる保育記録の工夫

質の高い教育・保育の実現のためには、取組の評価と改善が大切です。教育・保育を記録し、そこから子ども理解や環境構成の在り方等を見直し、次の取組に生かします。

本章では、奈良教育大学附属幼稚園が研究開発した、「保育ほっとホットトーク」と「わくワークシート」を紹介します。

# 明日の“楽しい保育”につながる保育記録の工夫

奈良教育大学附属幼稚園の研究

～「子どもたちの未来につながる“楽しい保育”の追及」から～

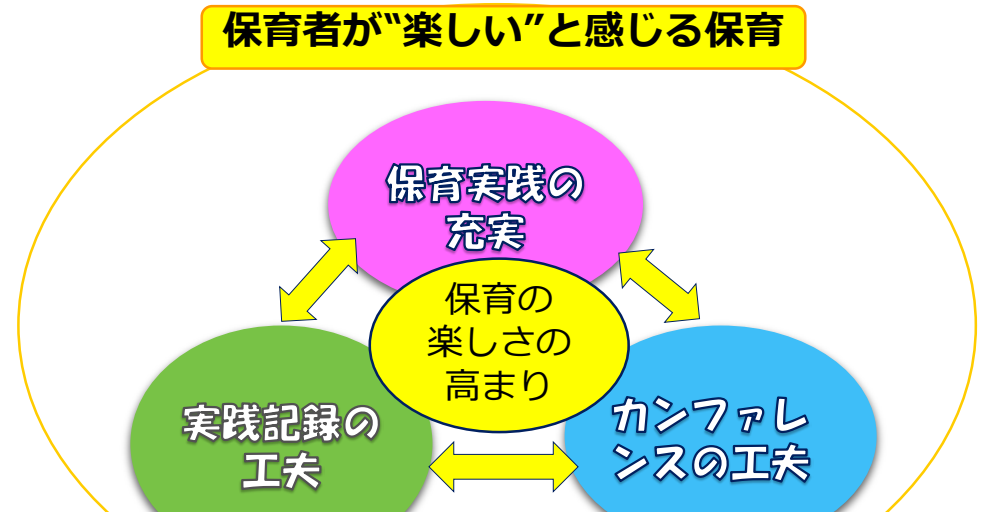
## 1. “楽しさ”から始まる保育

子どもは“楽しい”から遊び、“楽しさ”の中で学びます。それは、保育者も同じです — 子どもの“楽しさ”を見つめ、共感する。“楽しさ”の中の学びを見取り、さらなる“楽しさ”と学びを生み出す環境構成や援助を行う — 子どもの“楽しさ”は保育者の“楽しさ”でもあります。「保育者が“楽しい”と感じる保育」をすることから始めましょう。

## 2. 「保育者自身が楽しいと感じる保育」をするために

保育者が“楽しい”と感じたことから記録する「保育わくワークシート」と、そのシートをもとに語り合う「ほっとホットトーク」で、意欲を高め、保育の質の向上を目指しましょう。

保育者が“楽しい”と感じる保育



保育わくワークシート

保育者が楽しいと感じた場面を記録

保育ほっとホットトーク

「保育わくワークシート」をもとにしたカンファレンス

### 3. 「保育わくワークシート」と「保育ほっとホットトーク」の効果

#### 保育わくワークシート とは・・・

- ・保育者が「楽しい」と感じた保育場面を記録するシートです。
  - ・「楽しい」と感じたことから書き始める
    - ⇒ 楽しい気持ちで保育を振り返ることができる
  - ・30分程度で書きたいところ、書けるところを書く ⇒ 気軽に書ける
  - ・援助や環境構成のきっかけとなった思いを書く
    - ⇒ 保育者の思考が可視化される

#### 保育ほっとホットトーク とは・・・

- ・ **保育わくワークシート** を使ったカンファレンスです。
  - ・記録者は一番楽しかった場面を語り、参加者は気付いたことや質問を自由に発言する ⇒ 保育の喜び、奥深さを共有できる
  - ・話し合いながらシートを完成させる
    - ⇒ 子ども理解が深まり、参加者全員の保育力が向上する
  - ・記録者の悩みの解決や、次の日の保育につながる
    - ⇒ 保育者のモチベーションが上がる
  - ・楽しい場面発信のため、互いを認め合うことができる
    - ⇒ 同僚性が高まる

保育わくワークシート 歳児 月 日 ( ) 「 」 記録者


The worksheet contains handwritten notes in Japanese, organized into sections. It includes a table at the bottom with columns for '観察ポイント' (Observation Points), '自覚心' (Self-awareness), '協働性' (Collaborativeness), '選取性・積極的な発言' (Selectiveness/Active Participation), and '社会生活との関わり' (Relationship with Social Life). A small photograph shows a group of children sitting in a circle on the floor, engaged in an activity.



# 4. 「保育わくワークシート」の書き方

## ①保育者が“楽しい”と感じた場面を書く、写真を貼る

保育わくワークシート 歳児 月 日 ( ) 「 」 記録者

姿	ねらい	環境構成		
<div style="border: 2px solid orange; border-radius: 20px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 20px auto;"> <p>保育者が楽しいと感じた場面を書く</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 20px auto;"> <p>楽しい場面の写真を貼る</p>  </div>				
【子どもの育ち】(幼児期の終わりまでに育ってほしい姿)				
健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

- この欄には「保育者が“楽しい”と感じた場面」の子どもの姿を記入する。
- 箇条書きで思いつくままに書くとよい。

●この部分だけでも書きためていくことで保育者のモチベーションアップにつながる。

## ②楽しい場面までの展開、保育者の考えや援助を記入

保育わくワークシート 歳児 月 日 ( ) 「 」 記録者

姿	ねらい	環境構成		
【子どもの育ち】(幼児期の終わりまでに育ってほしい姿)				
健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

子どもの遊んでいる様子

保育者の援助

保育者の思い・考え・ねがい

- 「保育者が“楽しい”と感じた場面」につながる「子どもの遊んでいる様子」と「保育者の援助」を思い起こしながら、上から順に書いていく。
- 援助の側に吹き出しをつけ、その援助の根拠となった「保育者の思い・考え・ねがい」を書く。

- 保育を振り返ることで、自分の援助に根拠のあることや、その援助が子どもの姿にどのように影響を及ぼしたのかについて気付くことができる。
- 「保育者の思考の見える化」により、保育ほっとホットクの重要な観点の1つである援助と遊びの展開について深い学び合いができる。

### ③子どもの姿、ねらい、環境構成、子どもの育ちなど記入

保育わくワークシート 歳児 月 日 ( ) 「 」 記録者

姿 ○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○	ねらい ○○○○○○○○○.....① ○○○○○○○○○.....② ○○○○○○○○○.....③	環境構成 ○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○		
【子どもの育ち】(幼児期の終わりまでに育ってほしい姿)				
健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

- 「保育者が“楽しい”と感じた場面」に関連することに絞って、「姿」「ねらい」「環境構成」を記入する。
- 「ねらい」の上から順に番号を付けて、援助の根拠となったねらいの番号をそれぞれの援助の横に書く。
- 最後に「子どもの育ち」を記入する。

- シートに書き込んでいくことで、子どもの姿とねらいの整合性、ねらいと環境構成や援助の適合性など自分の保育を振り返ることができる。
- 「子どもの育ち」の欄の項目は、自由に設定する。「幼児教育において育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、「主体的・対話的で深い学び」、「教育目標」などを設けることで、多面的に子どもの育ちをとらえることができる。

## ④保育ほっとホットークで出たこと、気付いたことを記入

保育わくワークシート 歳児 月 日 ( ) 「 」 記録者

姿 ○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○	ねらい ○○○○○○○○○……① ○○○○○○○○○……② ○○○○○○○○○……③	環境構成 ○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○	
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 20%;">                     A. ○○○○○○                      ○○○○○○                      ○○○○○○                 </div> <div style="width: 60%; text-align: center;"> </div> <div style="width: 20%;">                     B. ○○○○○○                      ○○○○○○                      ○○○○○○                 </div> </div>			
【子どもの育ち】(幼児期の終わりまでに育ってほしい姿)			
健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い
		社会生活との関わり	豊かな感性と表現

●「保育わくワークシート」をもとに「保育ほっとホットーク」を行った場合は、語り合ったことで新たに気付いたこと、理解を深めたこと、次の保育の構想につながるようなことなどを関連する場面の近くにメモをする。

●「子どもの姿」「ねらい」「環境構成」「子どもの育ち」の項目については、みんなで話し合いながら、加筆していく。

●保育ほっとホットーク中または後に記入する部分は赤字または青字で色を変えて記入する。

●余白に記録者（担任または実践者）の感想をまとめて書いておくことで自身の学びの軌跡が残っていく。

●対話の中で、子どもや保育の在り方について新しい気付きを得ることができる。また、保育の楽しさ、喜び、奥深さなどをみんなで共有することで、保育意欲の向上につながる。

●話し合ったことを集積することで、「年齢の特性」「保育者が“楽しい”と感じる保育をするための環境構成や援助のポイント」を明らかにすることができる。

# 5. 「保育わくワークシート」と「保育ほっとホットトーク」の実践例

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 空気に過せるようになってきてはいる</li> <li>○ 園生活で楽しいと感じている</li> <li>○ みんなで遊べる楽しさを感じている</li> <li>○ 「わくわく」を感じて先生と一緒に遊ぶ場面が増えてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 先生や友達と一緒に遊ぶのが楽しいと感じる</li> <li>○ 先生や友達と一緒に遊ぶのが楽しいと感じる</li> <li>○ 一緒に遊べるのが楽しいと思う</li> <li>○ いろいろな遊びの出会いや仲間と遊ぶのが楽しい</li> </ul>	<p>環境構成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シーソー</li> <li>・ マット</li> <li>・ タンブリン</li> <li>・ マット</li> <li>・ いす</li> </ul>
---	--	---



<p>健康な心と体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安心して遊ぶ</li> <li>・ シーソーに乗る心地よい体験</li> <li>・ 園生活の楽しさを伝える</li> </ul>	<p>自立心</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の好きな遊びをする</li> <li>・ 自分のペースを大切に遊ぶ</li> </ul>	<p>協同性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と一緒に遊ぶのが楽しい</li> <li>・ 友達と一緒に遊ぶのが楽しい</li> <li>・ 友達と一緒に遊ぶのが楽しい</li> </ul>	<p>道徳性・規範意識の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と一緒に遊ぶのが楽しい</li> <li>・ 友達と一緒に遊ぶのが楽しい</li> </ul>	<p>社会生活との関わり</p>
<p>思考力の芽生え</p>	<p>自然との関わり・生命尊重</p>	<p>数量・図形・文字等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ タンブリンをたたいて遊ぶ</li> <li>・ 数を数える</li> </ul>	<p>言葉による伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「わくわく」を感じて遊ぶ</li> <li>・ 「わくわく」を感じて遊ぶ</li> </ul>	<p>豊かな感性と表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と一緒に遊ぶのが楽しい</li> <li>・ 友達と一緒に遊ぶのが楽しい</li> </ul>



タンブリンははじめから出していたの？



ジャンプタッチ遊び用に3個出していたよ。  
タンブリンの音や楽しそうな雰囲気につられて子どもたちが集まってきたから、椅子を増やしたよ。  
はじめは手を叩いていた子どもも、タンブリンを叩きたいといったので、慌てて数を増やしたよ。



3歳児のはじめは遊具の数は多めにと指導計画に書いているけど、まさにその必要性がわかる場面だね。



少ない数の物を共有することも大切だけど、この場合はたくさんあったからこそ楽しく遊べたんだね。





椅子に座っている順番にシーソーに乗ったのかな？



シーソーにまだ乗っていない子どもが、数え終わったら自分から乗りにいったよ。シーソーに乗っている子どもが待っている友達に替わるために始まった遊びだから、順番にしようとは思ってなかったよ。



私なら順番に替わるように教えたかもしれないわ。



まだ乗ってない子どもがいたら「〇〇ちゃんはまだだね」とお互いが思い合えれば幸せだね。



3歳児にとったら打楽器は自分の思い通りに音が出せることが楽しいと感じるポイントじゃないかな。

## <保育ほっとホットークを終えて 記録者が学んだこと>

●3歳児らしい姿や保育が、他学年の保育者にとって新鮮に感じられたことが話のきっかけとなり、「物との出会い」「遊具や用具の数」など3歳児のこの時期のねらいや環境構成のポイントにつながるトークとなった。

●「ほっとホットーク」の中で「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を記入する時に「自分で音をコントロールできる」という打楽器の特性が3歳児にとっては楽しいと感じるポイントであり、やがてリズムに合わせて叩くことにつながるということを学んだ。

●「順番をどんな場面で教えていくのか」については、3歳児ならではというよりも保育者の価値観によるところが大きいかもしれない。自分の価値観や援助の傾向などについて考えるきっかけとなった。





## VI 小学校教育を見通した幼児期の学びの在り方と 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 ～幼小接続推進力～

子どもは、園・所で友達や保育者と遊びを通して成長し、幼児期の教育を終えて小学校に就学していきます。小学校入学後に、子ども一人一人が十分に力が発揮できるよう、小学校以降の生活や学びを見通して教育を行うことが必要です。

本章では、小学校教育を見通した幼児期の保育の展開についてまとめています。また、「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」に共通して示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、5歳児になって突然に現れるものではありません。3歳児から5歳児までに見られる姿として示し、その姿に至るまでの発達過程をイメージできるようにしています。

# 小学校教育を見通した幼児期の学びの在り方と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」～幼小接続推進力～

## 小学校教育を見通した幼児期の学びの在り方と接続期の実践事例

### 今求められる幼小接続の方向性とは

幼児教育と小学校教育を比較してみると、子どもの生活や教育の在り方は異なっています。しかし、子どもの育ちはもとより、「学ぶ」という行為はつながっています。幼児教育と小学校教育の教育内容や指導方法の相違点・共通点を理解し合っていくことが求められています。

小学校学習指導要領において、「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。」と示されています。幼児期に遊びを通して育まれてきたことを各教科等での学習につなげていくことが求められているのです。

そのためには、就学前教育の中で、子どもたちがどのように成長し、学びを深めているかを理解し、小学校に発信していくことが重要です。

### 実践事例 大和高田市

市内研修の工夫

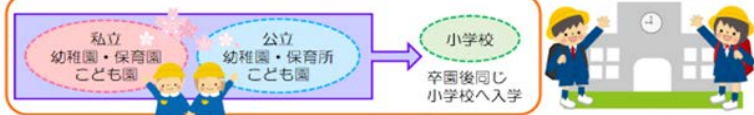
（担当者）  
大和高田市  
教員がつながれば、子どももつながる

市内で行う幼小接続研修の対象者を広げた。学校教育課が中心となり保育課と連携したり、私立園に研修の意図や大切さを伝えたりし、市内の就学前教員と小学校教員が共に学び合う研修とした。（就学前指導主事、小学校指導主事も参加）

取組の目的、意図

市内には公立私立合わせて23の就学前施設があり、そこから市内8小学校へ入学する。そこで、それぞれの園所における子どもたちの生活や活動、学びを理解し合い、就学前と小学校がつながる為に出来ることを考えた。

なぜなら・・・ みんな「高田っ子」



研修方法の工夫！



研修は講演だけでなく、校区やブロック別でのグループワークを入れました。  
Point 1  
会話が弾みます！

Point 2  
園生活の一場面における学びの読み取り。五領域、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』から小学校の教科等へとつなげました。

研修内容の工夫！



☆成功の力は・・・

研修会毎にアンケートを取り、就学前・小学校教員の「したいこと」「困り感」などを把握し、次回の研修内容に生かしています。

Point 3

- 二人で話し合ったりして聞いたりしています。
- 一人は二種類の様子、一人は本をみる様子と役割を分けて準備しています。
- たくさん本を入れたい」と考えられています。

【遊びから学びを読み取る】

成果

- 本市では、あまり交流がなかった小学校と公立保育所や私立園の教員が交流をもてる研修の場となった。
- 小学校教員・・・遊びの中には教科書のない学びがあることを知れた！
- 就学前教員・・・幼児期に培った力が小学校での学びに、つながっていることを研修で実感できた！



## 実践事例 生駒市

私立保育園と公立幼稚園交流

### 地域の中でのつながりが、安心感へ

(提案者)  
社会福祉法人晋栄福祉会  
いちぶちどり保育園

地域主催の雪まつりにともに参加し、遊びを通して関わりをもったことがきっかけとなり、私立保育園・公立幼稚園がつながった。平成29年度よりモデル地域に指定され、保幼小接続事業の取組が本格的に行われることになった。

#### POINT!

##### ☆交流を行うまでの保育園としての課題☆

- 登園時間に差があること
- いろいろな小学校に就学すること
- 交流活動に応じて給食時間等の調整が必要なこと

##### ☆園として行ったこと☆

- ◎参観前、送迎時などに保護者に交流時間までに登園することを伝え、協力を求めた。
- ◎小学校との交流を通して、小学校の場に慣れるなど、交流の意義を保護者に啓発した。
- ◎無理のないスケジュールで交流計画を立てた。
- ◎それぞれの施設の特徴を活かした交流の内容を考えた。

##### ☆成果☆

- ・交流を深めることで子ども同士が顔見知りとなり**不安なく、自信をもって就学**できるようになった。
- ・小学校を身近に感じ、**期待感や安心感**をもてた。
- ・**保護者**にとっても小学校との交流活動が就学に対しての**不安解消**につながった。

##### 保育園での交流



ジャングラミング  
楽しい!

ほった  
やわらかいな

あかちゃんて  
ちいさくて  
かわいい!

##### 交流を深めることで

- ・一緒に遊ぶ姿が見られ**主体的**に遊びが広がる様子が見られた。
- ・お互い刺激を受け合い**意欲的**に取り組む姿が見られるようになった。

結果

- ・同地域の友達と関わり、安心感をもちながら就学への意欲を高められた。
- ・小学校での学びに繋がる共通した遊びを一緒に楽しむことができた。
- ・保幼小交流に刺激をうけ、近隣の保育園とも交流をもつ、きっかけとなった。

同じ畷分地域の保育園の  
子どもたちとも交流  
「また、遊ぼうね!」



私立保育園+公立幼稚園

地域の小学校との交流

地域の協力を得て、つながっていくことで保護者、子どもたちの不安が解消された。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

就学前の教育が、小学校以降の生活や学習の基礎の形成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすることが重要です。

創造的な思考の基礎を培うため、子どもが出合う様々な事柄に対して、したいという意欲を大切にし、うまくいかなくても諦めず、更に考え工夫していくことができるように援助します。主体的な態度の基礎を培うため、物事に積極的に取り組み、自分なりに生活をつくっていくことができるように援助します。これらの活動を通して、子どもに「自尊心」「規範意識」「学習意欲」が育っていくことが期待できます。

子どもが発達していく姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」で捉え、日々の教育・保育を展開していくことが必要なことです。また、これらの姿は、5歳児に突然見られるようになるものではないため、5歳児だけではなく、それぞれの時期から、乳幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意する必要があります。

# 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の発達過程

## 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に動かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

## 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

## 協同性

友達と関わる中で、互いの思いやりや考えなど共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたりの工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

## 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

## 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりを意識するようになる。

小学校

幼児期の  
終わり

5歳児

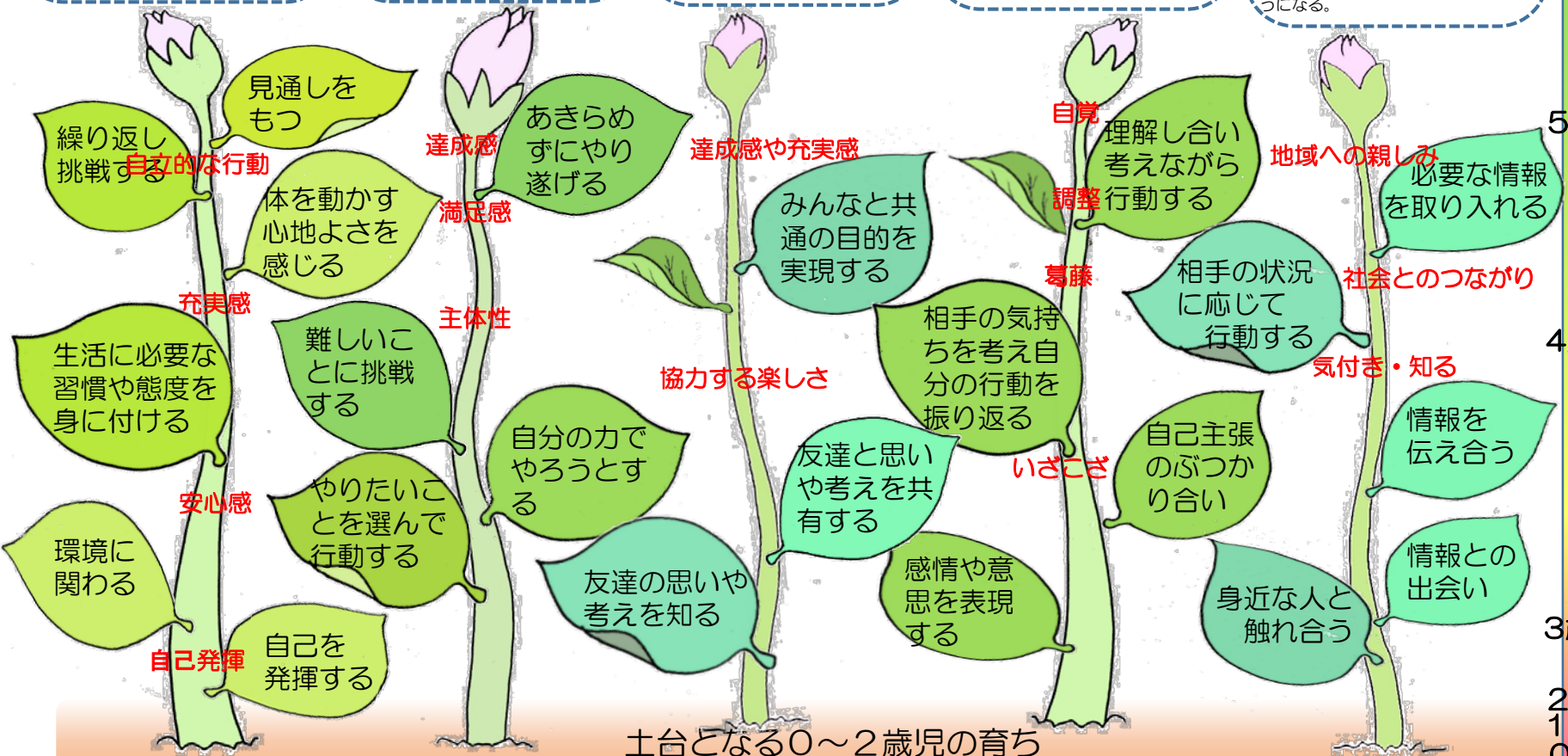
4歳児

3歳児

2歳児

1歳児

0歳児



「自尊感情」「規範意識」「学習意欲」と同様に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」も、5歳児に突然見られるようになるものではなく、子どもが発達していく方向を意識してそれぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねることが必要です。

### 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考え方を生み出す喜びを味わいながら、自分の考え方をよりよいものにするようになる。

### 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚悟をもって関わるようになる。

### 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

### 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

### 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を動かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

